

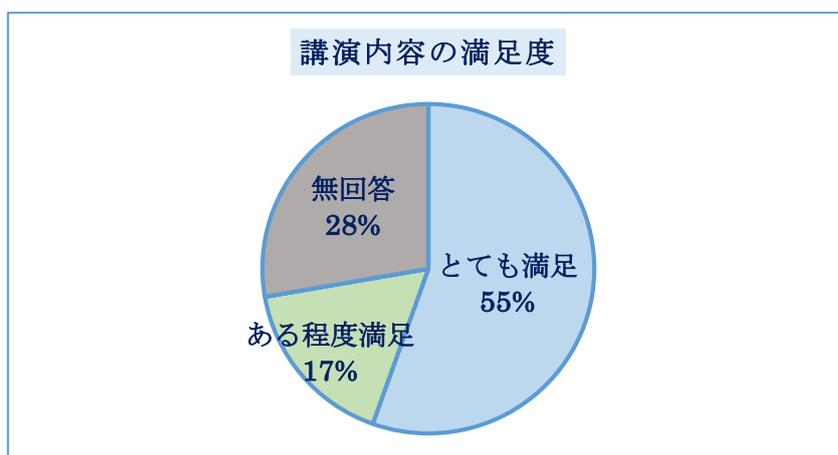
中村先生から提供された対話会参加学生の事後アンケート結果（スキャン版）を設問ごとに以下にまとめた。なお、記載された学生の文章は、誤字脱字を除き原文のまま収録した。

1. 対象 回答者数 18名（内訳：男性10、女性8）
*学部1年生2、3年生4、4年生7、不明5

2. アンケート結果

(1) 講演の内容は満足いくものでしたか？その理由は？

- ・とても満足した10 ・ある程度満足した3 ・やや不満だ0 ・大いに不満だ0 ・無回答5

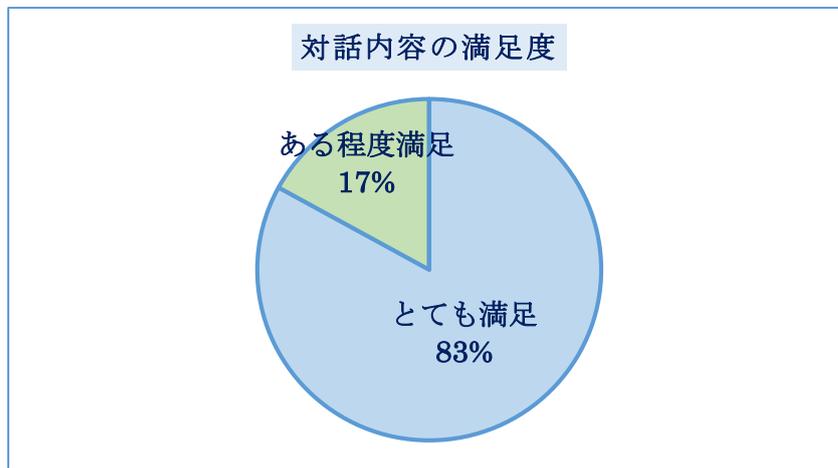


理由：

- ・放射能についての実態や日本の発電エネルギーについて良く分かったから。
 - ・原子力発電の仕組みや放射線教育のあり方について聞いたから。
 - ・エネルギーの現状について自分の知らなかった最新の情報を学ぶことができたから。
 - ・原子力発電についてよくわかった。
 - ・専門家の皆さんにお話を聞いたことが大変貴重だったからです。
 - ・北海道大停電について知れたから。
 - ・どのようにしてエネルギーが変わってきたのかや発電にどのくらいの量のエネルギーがそれぞれ必要でどのくらいもつかを初めて知ったから。
 - ・エネルギーの使用可能年数や現状の原子力の課題について知ることができた。
 - ・普段の授業では絶対に聞くことができない専門家の方々のお話を聞くことができたから。
- (無回答者のアンケートには“講演には参加しなかった”の記載があった。)

(2) 対話の内容は満足いくものでしたか？その理由は？

- ・とても満足した15 ・ある程度満足した3 ・やや不満だ0 ・大いに不満だ0 ・無回答0

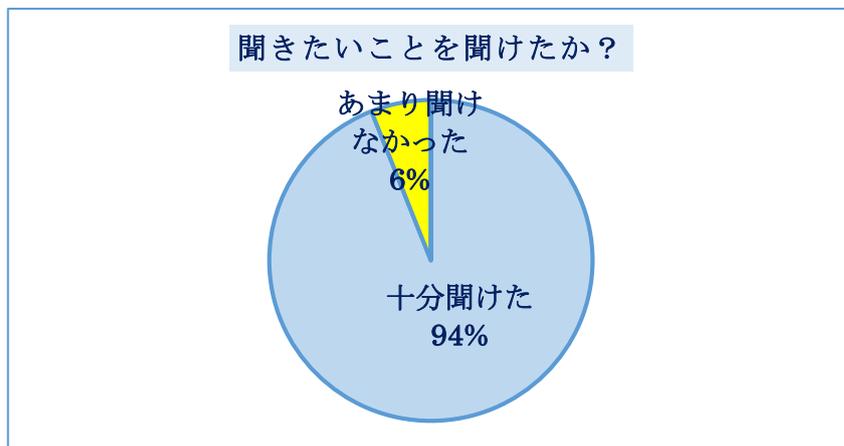


理由：

- ・このような対話をするという機会は貴重で勉強になりました。
- ・様々な意見の交流があり、別の視点からのことも考えることができたから。
- ・何度か同じような会に参加したことがあるので、もっと他のお話ができたら良かったと思っています。
- ・本対話以外にもこのような話し合いに参加してきたが、また違った考えや意見を聞いて良かった。
- ・学生一人一人からの質問に答えながら、様々な話をしていただけた。
- ・対話に参加していた人との意見交換やシニアの方にいろいろ質問できたから。
- ・対話を行うことでより深い学びができたと思います。
- ・個人の質問に全て答えてくれ、またその場で疑問に思ったことにも対応してくれ、とても深く学べた。貴重な経験をさせてもらえたから。
- ・経験豊かな方々のお話を聞いて、大変勉強になった。
- ・知識の少ない学生に対して、学生の意見を尊重し話を聞いていただけたからです。
- ・自身の知識不足のせいです。（“ある程度満足した”）
- ・世代の離れている人と対話する機会があまりないため。
- ・地層処分のお話も聞けたから。
- ・対話するという機会があまりなく、原子力について改めて考えることができたので良かったです。
- ・シニアネットワークの方々はもっと難しい話をすると思っていたが、とても分かり易く簡潔に教えてくださり、原子力の可能性と危険性など多数の視点の意見を聞くことができたから。
- ・放射線教育について理解できたから。
- ・学生たちが質問してことに対して、とても丁寧に教えてくださったから。

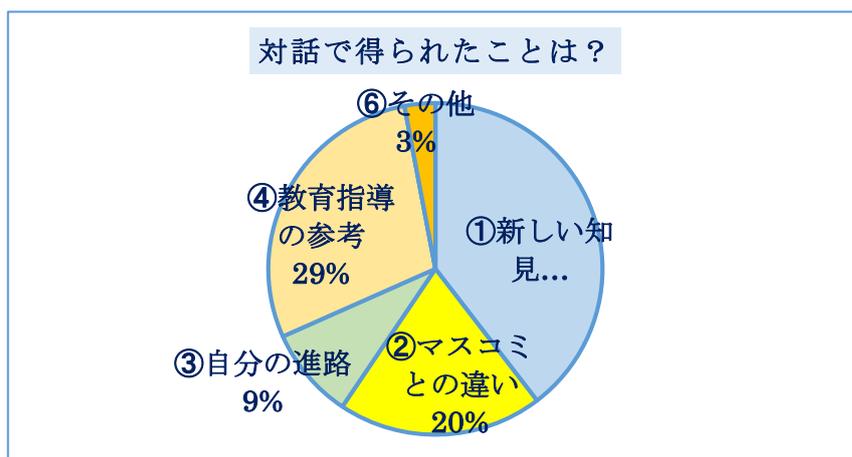
(3) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

- ・十分聞くことができた 17
- ・あまり聞けなかった 1
- ・全く聞けなかった 0
- ・無回答 0



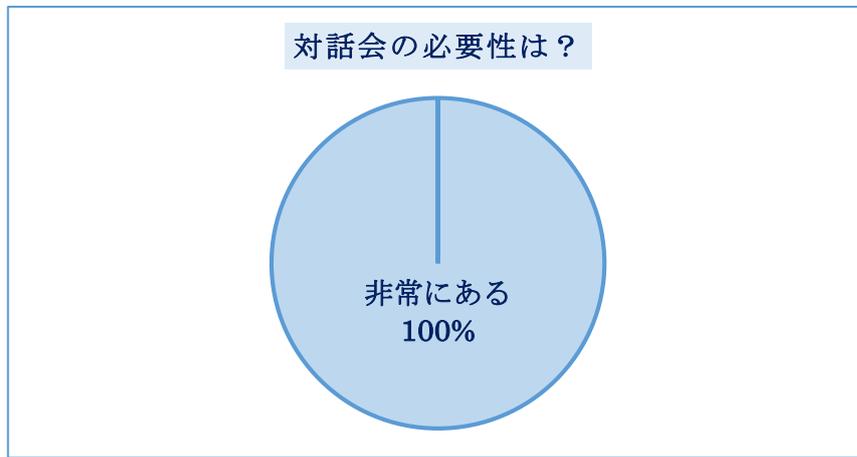
(4) 今回の対話で得られたことは何ですか？（複数回答も可）

- | | |
|---------------------------|----|
| ① 新しい知見が得られた。 | 14 |
| ② マスコミ情報と今回の対話会情報に違いがあった。 | 7 |
| ③ 自分の将来の進路の参考になった。 | 3 |
| ④ 教育指導の参考になった。 | 10 |
| ⑤ 特に新しい知見は得られなかった。 | 0 |
| ⑥ その他 | 1 |



(5) 「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

- ・非常にある 18 ・ややある 0 ・あまりない 0 ・全くない 0 ・無回答 0

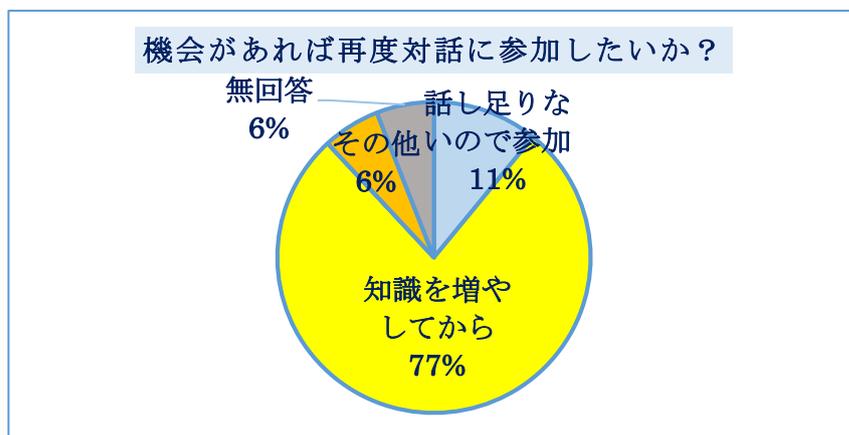


理由：

- ・様々な考えを知ることができることや社会に出て働かれていた経験などをしての方々の話を聞けるので必要だと感じる。
- ・学生からの見解だけでは見えない部分が多いため、その部分をシニアの方々はよく知っているからより必要だと感じる。
- ・観点や価値観、時代の違いによって生まれるギャップを互いに感じながら、それぞれの意見を聞くことができる。
- ・普段の生活で得られる情報はメディア、インターネットだけなので、このような対談で学べることは非常に有益でした。
- ・実際に原子力について関わってきた方々から話を聞くことは重要であると感じた。
- ・シニアの方々が専門職だった方だったので詳しい話を聞いた。
- ・異なる視点の人同士が対話を行うことはお互いの刺激になると思います。
- ・人生経験が深く、自分たちよりもずっと沢山のことを知っている人たちとの対話は必ず何か発見があると身をもって感じたため。
- ・経験量の違いか、新たな知識を多く得られるから。
- ・過去から現在までの原子力を語ることでできる人材は少ないからです。
- ・学生側の疑問に対する解決の指針が示されたから。
- ・世代や性別、今の現状などで考え方が異なるため。
- ・専門家のご意見が聞けるから。
- ・世代の違う人たちで話すことにより、より様々な話がでると思った。
- ・実際に研究に携わってきた方の話はほとんど聞く機会がないし、原子力のことなどについて普通私たちが知ることができるのはニュースくらいしかなく、偏った意見しか知れないから。
- ・専門家の意見を聞くことで、マスコミなどの情報の正誤の判断ができるから。
- ・学生が授業や報道番組から得た知識とは異なる見解をシニアの方は持っているので、シニアの方と対話することでより深い理解につながると思うから。

(6) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

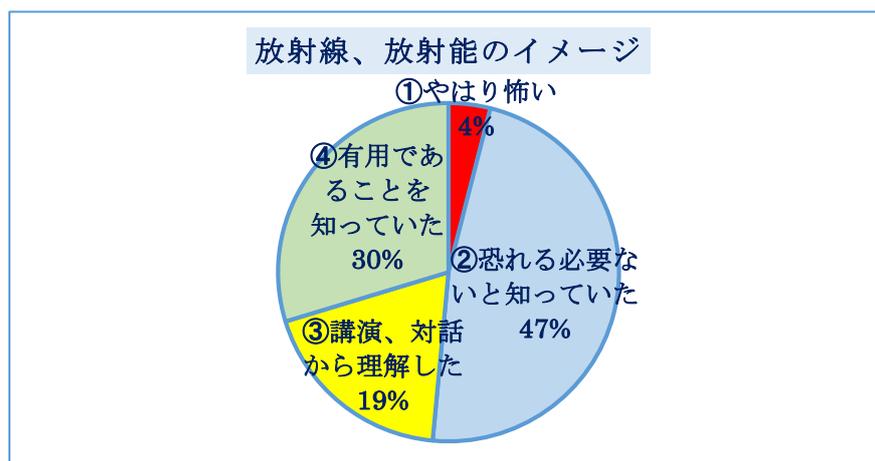
- ・まだまだ話したりないので参加したい 2
- ・もっと知識を増やしてから参加したい 1 4
- ・十分話できたからもういい 0
- ・二度も必要ないと思うからもういい 0
- ・その他 1
- ・無回答 1



・“その他”：学生主体のものであれば参加したい。

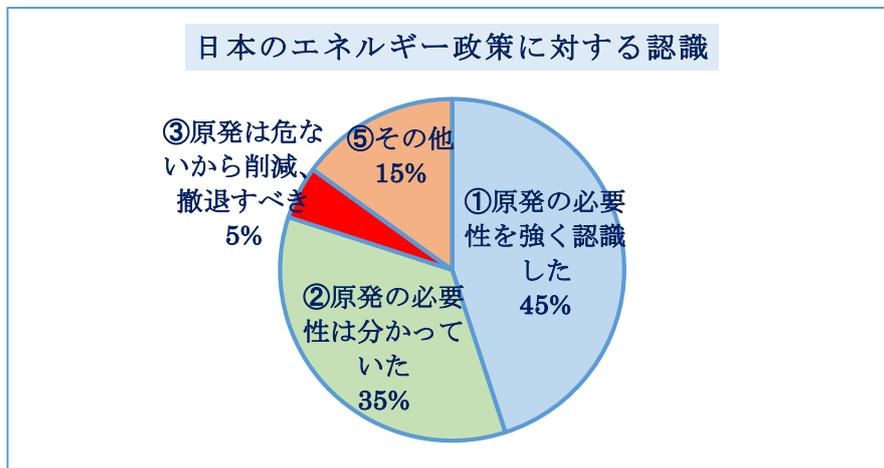
(7) 放射線、放射能に対してどのようなイメージを持っていますか？（複数回答も可）

- | | |
|------------------------------------|----|
| ①放射線、放射能はやはり怖い。 | 1 |
| ②一定のレベルまでは恐れる必要はないと以前から知っていた。 | 13 |
| ③一定のレベルまでは恐れる必要がないことを講演、対話から理解できた。 | 5 |
| ④ 放射線、放射能は生活に有用であることを前から知っていた。 | 8 |
| 無回答 | 0 |



(8) 日本のエネルギー政策では、原子力発電を基幹電力（2030年に発電電力量の20～22%）とし、省エネ・再エネ利用の拡大や火力の高効率化により、可能な限り削減していくとされています。対話も含めてあなたの認識は次のどれですか？その理由は？（複数回答も可）

- | | |
|---|---|
| ① 原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない。 | 9 |
| ② 原子力発電の必要性は分かっていたので、対話の前後で認識は変わらなかった。 | 7 |
| ③ 原子力発電の必要性は分かるが、やはり危ないから早期に削減又は撤退すべきだ。 | 1 |
| ④ 原子力発電を止め、再生可能エネルギーを最大限使えばよい。 | 0 |
| ⑤ その他 | 3 |
| 無回答 | 0 |



理由：

- ①・経済・コスト面や安全性などを考えていくと原子力発電の必要性を強く感じた。
 - ・原子力発電の場合、他の発電方法と比べるとあまりにもデメリットばかりが目立ち過ぎであるため、もっと放射線や原発について詳細を明確にすべきだと感じたから。
 - ・火力発電の高率化をしても、石油等の資源の方がなくなるまでにかかる時間が早いため。
 - ・エネルギー問題を早期に解決できるか代案がない現在には原子力の力が必要だと考えたからです。
 - ・再生可能エネルギーも不安定な発電だから、技術が進歩し再生可能エネルギーがしっかりと発電できるようになるまで使うべきだと考える。
 - ・今回の「学生とシニアの対話」で、原発は安全だということが分かったので、撤退せずに使用していくべきだと思う。
 - ②・「原子力を進めるには多面的なバックアップが必要である」と私の話した班では結論でき、それは元々私の知識にあったものがそのまま結論になったので。
 - ・大学の授業で、先生の話や、これらの対話以外にも原子力関連の話をしていたので、一般の認識とギャップがあるのを理解していた。
 - ・原子力発電＝危険というイメージを持っている人が沢山いると思うので、まずは正しい知識と事実を広めて、多くの人に知ってもらうことが必要。
 - ・原子力発電も必要だとは思いますが、まず使用する電気量を減らすことが第1だと思う。
 - ・再生可能エネルギーだけでは日本の電気エネルギーは賅いきれないから。
 - ③・日本のエネルギー量を多くするには原子力を使うことでしか達成できないと考えるから。（この学生は①にもチェックをいれていた。）
 - ⑤・自分は原子力の必要性は感じていたが、危ないという意見も分かるため、20～22%が実現できればとりあえず充分だと思うから。
 - ・まだ一概に撤去すべきとか使うべきとかの意見を言えない、分からない。
 - ・原発は事故さえ防げればとても有効なので、可能な限り活用すべきと感じた。
- (9) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。
- ・現代において、一般市民の方々の原子力や放射能における認識や知識が乏しいため、もっと原発や放射能についての正しい知識を身に付けなくてはならない。また、次世代にも正しい知識を伝えていかななくてはならないと感じた。
 - ・情報の偏り、不確実な情報など、シニアの肩からお話を聞いてあらためて実感いたしました。様々な

情報、生き方が多様にある社会でどう暮らしていくのか、あらためて考えていきたいです。

- ・知識が豊富な方々との対談は自分の見解を広げるのにとっても有益でした。これまでは原子力が必要か必要でないか、中立の立場で話を聞いて知識を深めていくことをしていたが、今後はそこから自分の意見が持てるようにしたいです。
- ・原子力についての知識が少ない中で、シニアの方々からいろいろな話をさせていただけて良かった。対話形式だったため、話をする中で疑問が出てきたらすぐに聞くことができ、そこから派生して様々な情報を得ることができた。
- ・子供への放射線（教育？）は必要だと思っていましたが、それと同時に大人や今の世代の人たちへの放射線教育も必要だと思いました。今回学んだことを自分の将来に活かしたいと思います。
- ・自分は最初、対話会がどのような形か分からなかったため、上手く話ができるか不安でしたが、シニアネットワーク連絡会の方々の方から「質問をどうぞ」と聞いてくれ、また、何を聞いても丁寧に回答してくれ、とても面白く有意義な会でした。特に感じたことは、エネルギー問題は人類皆に関わっていることで、必ずどこかで解決しなければならない問題、そう考えるとエネルギー問題について考え、行動を起こすことはとても有意義でやりがいのあることだということです。シニアネットワーク連絡会の方々はとてもかっこよく見えました。自分もこれから教育という面でエネルギー問題を今までよりも考えていきたいと思います。
- ・沢山の経験をしてきた方々で、話していて面白かったです。もう少しお話できれば良かったと思いました。
- ・自分の知識不足、問題解決能力不足を痛感させられました。
- ・放射線のはわりと知っているつもりだったが、まだまだ知らないことが多いと実感した。今後もこのような機会があれば参加したいと感じた。
- ・今回の対話では、やはり自分の知識がとても少なく話を聞くだけで精いっぱいだった。次の機会があればその時は質問などもしっかりとできるような知識をつけ、より理解できるようになりたいと思う。
- ・今回の企画に参加してとてもよかったと思っている。今回の対話で、専門的なこと以外に、世間の情報をそのまま信用したり周りに流されるのではなく、自分の頭の中でしっかりと考えて整理して適切な判断をすることがとても大切だということを学んだ。

3. まとめと感想

- (1) アンケート回答者は、18名全員（男性10名、女性8名）が学部生（1，3，4年生）であり、講演後の対話会に参加している。
- (2) 講演と対話の内容については、ほぼ全員が「とても満足した」又は「ある程度満足した」としている。ただし、講演に関して無回答の5名がいたが、彼らは講演には参加せず、その後の対話のみに参加したようであり、その旨メモ書きがアンケートに残されていた。
満足の理由としては、講演については“放射線の現状や日本の原子力問題のあらましが分かった”とし、対話については“経験のあるシニアとの対話は貴重で勉強になった”や“質問に対して丁寧に答えてくれた”等とした。このことが、事前に聞きたいことは聞けたかの設問に対してほぼ全員が“十分聞けた”と答えていることにつながっている。
- (3) 対話で得られたことは何かの設問に対しては、“新しい知見”、“教育指導の参考”、“マスコミ情報との違い”の順に多くのチェックが入っていた。“教育指導の参考”に10名ものチェックがあった

ことは、やはり教育系学生の使命感が現れているように感じられる。また、全体の感想・意見に関する最後の設問でも、マスコミ情報との違いに注意して知識を付けなければならない旨の意見があった。

- (4) 対話会の必要性については18名全員が“とても必要”と答え、理由として“経験豊富なシニアとの対話は貴重だ“を大多数が挙げており、”他の仲間との対話も刺激になる“を挙げた学生も複数いた。対話会が単なる知識の授受だけでなく、人と人との直接対話が効果的に働いているように感じられる。ただ、再度対話会に参加したいかの設問に対しては、大多数が“もっと知識を増やしてから“にチェックをいれており、特に自分の知識のなさを反省している。このことが今後の奮起になることを願っている。
- (5) 放射線、放射能のイメージに関する設問に対しては、ほぼ全員が“一定のレベルまでは恐れる必要はない”、そのことは既に分かっていた等の主旨の回答があった。一人のみ“①やはり怖い”にチェックを入れた学生は③と④にもチェックを入れており、“恐れる必要がないのは分かっているが、やはり少し怖い”のメモ書きが残されていた。このように、参加学生のほとんどが放射線や放射能の安全性について既に正確に理解していたと考えられる。
- (6) 日本のエネルギー政策に関する設問に対しては、大多数が“①原子力発電の必要性を強く認識した”又は“②その必要性は分かっていた”にチェックを入れている。一方“③早期削減又は撤退”を選択した学生が1名いたが、その理由欄の文章は意味不明である。他に“⑤その他”をチェックした3名は、理由として1名が“分からない”、他は“(原発) 20~22%が実現できれば充分”等原発利用に肯定的な意見を書いている。特筆すべきは、④の再生可能エネルギー最大限利用のチェックが0であったことであり、全体として参加学生は原子力発電の必要性を理解しており、再エネへはあまり期待していないことを示している。

以上